独立行政法人
国民生活センター

報道発表資料

相談解決のためのテストから No. 18

平成 24 年 3 月 1 日

独立行政法人国民生活センター

消費生活センター等の依頼に基づいて実施した商品テスト結果をご紹介します。

雨漏りのおそれがある、軽量なテント

1．依頼内容

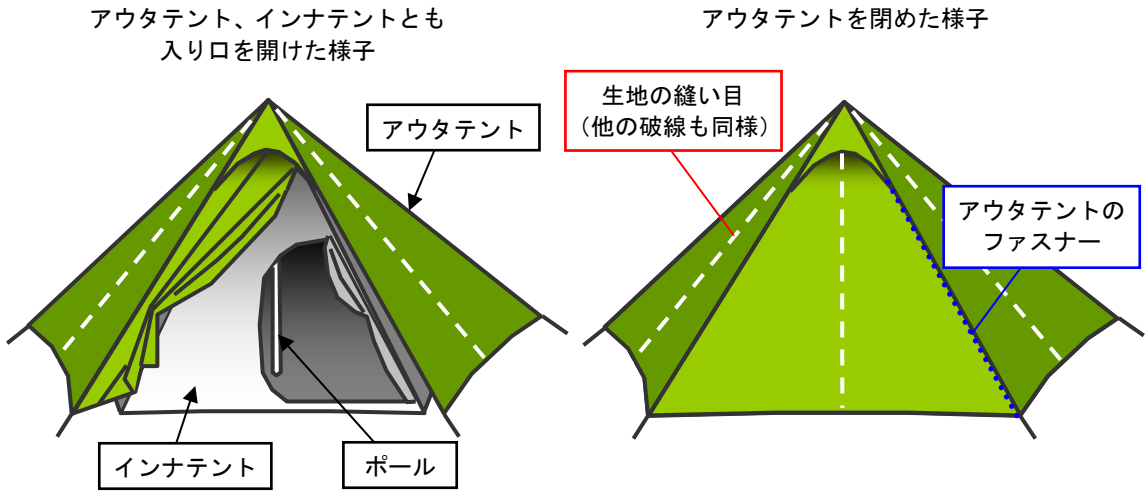
「初めて使用したテントで雨漏りがした。高山で使用されるものであり危険なので、テントの防水性に問題がないか調べてほしい。」という依頼を受けました。

2．調査

苦情品は、5 角錐（すい）の形状で、中央のポール 1 本で立てるタイプのテントです。苦情品はアウタテントとインナテントがそれぞれ別売りで、アウタテント単体でも、床のないテントとして使うことができますが、インナテントと組み合わせることで、4～5 人用のテントにもなります（図 1 参照）。このテントは、アウタテントとインナテントの付属品を全て含めて、総重量が約 2kg と、軽量でした。

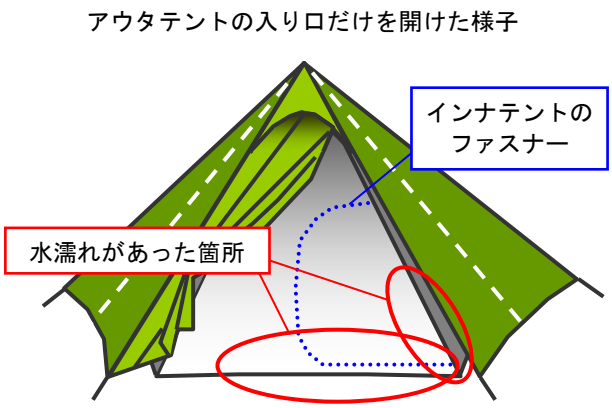
なお、アウタテントの縫い目部分には目止めがされていませんでした。取扱説明書には、構造上、縫い目から侵入した水が内部に垂れにくいようになっているが、縫い目の目止めがされていない旨と、縫い目の防水性を向上させる方法が記載されていました。

図 1．テントの外観（組み立てた様子）



アウタテント、インナテントとも、入り口を閉めた状態で、4.5m の高さから 1 時間で 600ℓの水（雨量に換算すると最大で 60mm/h）を散水する、雨水の侵入に対する抵抗試験（注）を実施したところ、インナテントの外側に水濡れがあり、インナテントの床部（グランドシート）には水滴が認められました。

図 2. インナテントの外側に水濡れがあった箇所（赤丸の箇所）



また、苦情品や苦情同型品のアウタテントには、二種類の生地が使われており、それぞれの生地のつなぎ目には縫い目がありました（図 1、2 参照）。苦情同型品のアウタテントに使われていた生地を切り取り、耐水圧試験（注）を行ったところ、一部の生地の耐水圧が基準以下でした。さらに、縫い目を含んだ部分では、縫い目のない部分に比べて耐水圧が低いことが分かりました。

（注）現在、登山用テントを対象とした公的な基準がないことから、（財）製品安全協会による「キャンプ用テントの認定基準及び基準確認方法（CPSA0100）／平成 6 年 1 月 27 日」を参考にして雨水の侵入に対する抵抗試験と生地の耐水圧試験を実施した。

以上、苦情品と苦情同型品は、防水性能が低いと考えられ、雨天時の使用にあっては雨漏りするおそれがあると考えられました。

３．解決内容等

このテスト結果を受けて、事業者からは、取扱説明書のみに記載されていた、縫い目の目止めと防水性の向上に関する注意書きを、ホームページの商品説明に追加し、次回発行するカタログにも記載して周知するとの報告がありました。

なお、相談者には商品代金が返金されています。

本件問い合わせ先
商品テスト部：042-758-3165

<title>雨漏りのおそれがある、軽量なテント（相談解決のためのテストから　No. 18）</title>